

2022/2023 シーズンのインフルエンザ

2022/2023 シーズンは 3 シーズンぶりにインフルエンザの流行が確認され、2022 年第 51 週に流行期に入り、2023 年第 10 週に定点当たり報告数 13.29 のピークを迎えました。2023 年 4 月以降、定点当たり報告数は 1～2 前後で推移しており、現在も患者の報告が継続しています。

今シーズン病原体定点で採取された検体から検出されたインフルエンザウイルスは AH3 が 210 件、AH1pdm09 が 14 件、B ビクトリア系統が 15 件で、B 山形系統は検出されませんでした（7 月 24 日現在）。過去のシーズンでは、流行の終期にかけて B 型の検出が増加する傾向にありましたが、2022/2023 シーズンは現在も AH3 が継続的に検出されているのが特徴で、AH3 が流行の中心となったシーズンとなりました（図）。

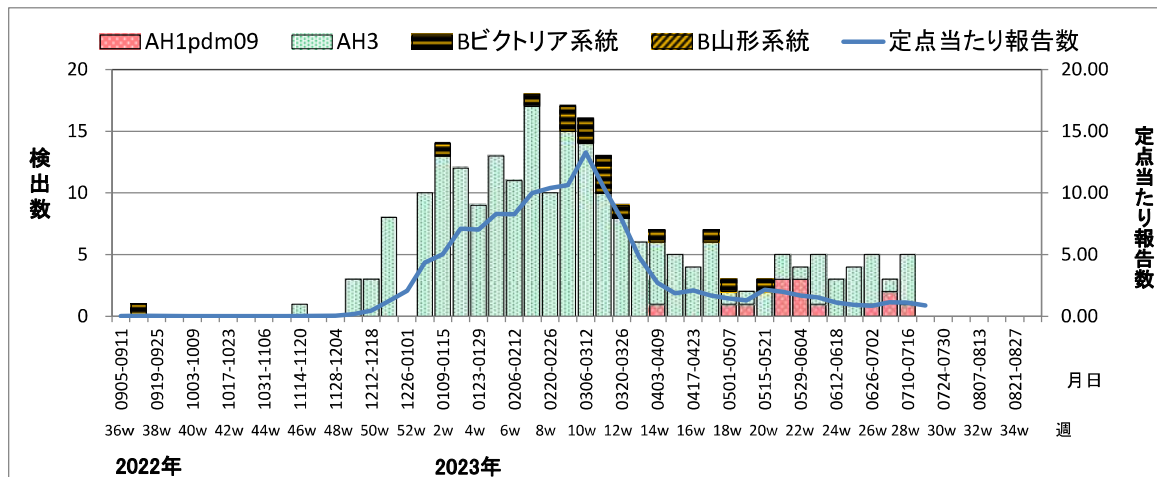


図 インフルエンザの定点当たり報告数とウイルス検出状況

週別、患者年齢階級別のインフルエンザウイルス型別検出数等の詳細は県感染症情報センターのホームページ (<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html>) に最新情報を掲載しています。

病原体定点医療機関の先生方には引き続き検体採取へのご協力をお願いします。